

1 校門を通り抜けると・・・



昭和62年



現在

在学当時、校門を通り抜けると、「階段校舎」の西の端の管理棟（職員室等があった）が目に入る。管理棟横の階段を過ぎて進んでいくと、中庭を挟んで「階段校舎」の本館（各学年の教室があった）と特別教室棟が向き合う空間が見える。それが私たちの高校時代の日常の風景であった。

「階段校舎」とは、昭和43年に建設が始まった今の校舎の前身の建物である。この校舎の本館は階層ごとにずれて重なっており、北側からの外見がまるで階段のように見えたことから、「階段校舎」と呼ばれていた。中庭側はオーバーハングしていたので、中庭はほんとに囲まれているという雰囲気が強かった。ずれて重なっているおかげで天窓が設置でき、採光出来て教室が明るくなる…のはいいが、大きな窓は弊害もあった（笑）。夏暑すぎて、冬寒すぎたことである。また、現行の校舎とは違い、教室内では土足であった。

上の写真はそんな校舎の昭和56年の姿である。思い出深い校舎も新校舎の使用開始に伴い、平成21年1月には全撤去された。現在は管理棟、本館の跡地は広大な駐車場としても使われる多目的広場となり、芸術教室棟（後述）と特別教室棟、そして中庭ではなくなった「中庭」が当時の校舎群の面影を残している。（平成14年卒 中塚 啓太郎）

2 うどん小屋



3代目の右に小さく見えるのが2代目である。

昭和46年



現在

公式に「食堂」と呼ばれた施設は昭和30年代からあったそうである。しかし諸先輩や同級生の記憶にあるのは「うどん小屋」である。記録によれば校地の北辺にあるその「うどん小屋」、初代は地藏川沿い（現在の芸術棟付近）に、2代目は朝日高校の卓球場だったものを昭和36～47年の10年余り活用、そして旧鳥城高校給食場であった3代目は49年までの2年間「うどん小屋」として育ちざかりであった先輩諸兄の胃袋を支えていたのである。残念ながら細かくは思い出せないのだが、小屋で供される、極限までに薄く削がれたかまぼこや福神漬の赤い色がいまだに蘇るのは私だけではないだろう。その後の「小屋」について、2代目は平成24年までは空手道部部室として（その後老朽化により解体）、3代目は現在も演劇部部室・生徒会室として学生生活を支えている。「小屋」がうどんを供さなくなって半世紀近く、いまだに通称は「うどん小屋」だそうである。（昭和52年卒 内田 章文）

3 残った芸術教室棟！



平成5年



現在

階段校舎の奥に昭和61年竣工の芸術教室棟と呼ばれる、芸術肌のユニークな先生達がいらっしやる棟があった。1階が美術教室、2階が書道教室、3階が音楽教室だった。私は美術を選択していたが、1階はちょっと薄暗いが天井の高い開放的な教室だったように思う。高校から油絵を始めたが、特に描き方を教わるわけでもなく、よって特に上達するわけでもなく。先生も独特の飄々とした雰囲気、教室内はゆっくりとした時間が流れていた。平成21年に階段校舎は取り壊されているのでっきり芸術教室棟も取り壊されているのかと思いきや、なんと残っているではないか。職員室近くの教室からは遠く、休憩時間が終わるギリギリのタイミングで美術教室に入っていた事を昨日のことに思い出した。当時は階段校舎2階の廊下から芸術教室棟の廊下に直接歩いて渡っていた。今は塞がれた状態の廊下端部が、階段校舎との接続部の名残である。中庭に目をやると、平成6年に完成した遊歩道がまだ残っていた。中庭の両サイドに建物がある前提での蛇行する遊歩道のデザインだったと思うので、今の生徒はこの遊歩道がなぜここにあるのか不思議に思っているかもしれない。（平成7年卒 梶野 竜二）